

線形代数 (第 25 回)

25 行列の対角化

前回 は固有値, 固有ベクトル, 固有空間について定義し, それらの計算方法を確認しました. 今回はそれらを用いて行列を対角化する方法について学びます.

25-1 行列の対角化

定義 25-1

正方行列 A を対角化するとは, 正則行列 P をうまく選んで $P^{-1}AP$ を対角行列にすることを言う.

例えば, $A = \begin{bmatrix} 8 & -10 \\ 5 & -7 \end{bmatrix}$ に対して, $P = \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 1 \end{bmatrix}$ を選ぶと,

$$P^{-1}AP = \begin{bmatrix} 1 & -1 \\ -1 & 2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 8 & -10 \\ 5 & -7 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 3 & 0 \\ 0 & -2 \end{bmatrix}$$

となり, A は対角化できます.

次に上の P の見つけ方を説明します. A の固有多項式 $g_A(t)$ は

$$g_A(t) = \det(tE - A) = \begin{vmatrix} t-8 & 10 \\ -5 & t+7 \end{vmatrix} = (t-3)(t+2)$$

より, A の固有値は 3 と -2 . それぞれの固有空間は

$$W(3; A) = \left\{ a \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \end{bmatrix} \mid a \in \mathbb{R} \right\}, \quad W(-2; A) = \left\{ b \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix} \mid b \in \mathbb{R} \right\}$$

(固有空間の計算方法は第 24 回の資料を参照). 固有空間の基底として, $\mathbf{x}_1 = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \end{bmatrix}$, $\mathbf{x}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$ を取ると, 固有ベクトルの定義から

$$A\mathbf{x}_1 = 3\mathbf{x}_1, \quad A\mathbf{x}_2 = -2\mathbf{x}_2 \quad \dots \textcircled{1}$$

ここで, 固有ベクトルの基底を並べてできる行列

$$P = [\mathbf{x}_1 \ \mathbf{x}_2] = \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 1 \end{bmatrix}$$

を考えます. このとき, P は正則行列で, また①から

$$AP = A[\mathbf{x}_1 \ \mathbf{x}_2] = [A\mathbf{x}_1 \ A\mathbf{x}_2] = [3\mathbf{x}_1 \ -2\mathbf{x}_2] = [\mathbf{x}_1 \ \mathbf{x}_2] \begin{bmatrix} 3 & 0 \\ 0 & -2 \end{bmatrix} = P \begin{bmatrix} 3 & 0 \\ 0 & -2 \end{bmatrix} \cdots \textcircled{2}$$

従って

$$P^{-1}AP = \begin{bmatrix} 3 & 0 \\ 0 & -2 \end{bmatrix}$$

を得ます. つまり,

固有空間の基底を並べてできる行列を P とすると $P^{-1}AP$ は固有値が並ぶ!

行列 P で並べる固有ベクトルの順番と $P^{-1}AP$ の対角成分に現れる固有値の順番は対応しています. $\mathbf{x}_2, \mathbf{x}_1$

の順で固有ベクトルを並べると, $P = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 1 & 1 \end{bmatrix}$ であり,

$$P^{-1}AP = \begin{bmatrix} -2 & 0 \\ 0 & 3 \end{bmatrix}$$

[注意 1] 行列 P の定め方から, $P^{-1}AP$ の形 (固有値が並ぶ対角行列) は分かっているので, P^{-1} や $P^{-1}AP$ の計算は必要ありません.

[注意 2] 正方行列 A はいつでも対角化できるわけではありません. 対角化できる条件については次節で紹介します.

例題 25-1

行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ 3 & 4 \end{bmatrix}$ を対角化せよ.

[解答] A の固有多項式 $g_A(t)$ は

$$g_A(t) = \det(tE - A) = \begin{vmatrix} t-2 & -1 \\ -3 & t-4 \end{vmatrix} = (t-1)(t-5)$$

なので, A の固有値は 1 と 5. それぞれの固有空間は

$$W(1; A) = \left\{ x \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix} \mid x \in \mathbb{R} \right\} \quad W(5; A) = \left\{ x \begin{bmatrix} 1 \\ 3 \end{bmatrix} \mid x \in \mathbb{R} \right\}$$

ここで, 固有空間の基底を並べてできる行列を

$$P = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ -1 & 3 \end{bmatrix}$$

と置くと, P は正則行列で,

$$P^{-1}AP = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 5 \end{bmatrix}$$

(こうなる理由は②と同じ) □

[注意] $P = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 3 & -1 \end{bmatrix}$ と置いた場合は $P^{-1}AP = \begin{bmatrix} 5 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$ となり, こちらも正解です.

問題 25-1 行列 $A = \begin{bmatrix} 0 & -1 \\ 2 & 3 \end{bmatrix}$ を対角化せよ.

例題 25-2

行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & 1 & -2 \\ -1 & 3 & -2 \\ 2 & -2 & 6 \end{bmatrix}$ を対角化せよ.

[解答]

A の固有多項式 $g_A(t)$ は

$$g_A(t) = \det(tE - A) = \begin{vmatrix} t-1 & -1 & 2 \\ 1 & t-3 & 2 \\ -2 & 2 & t-6 \end{vmatrix} = (t-2)^2(t-6)$$

より, A の固有値は 2, 6. それぞれの固有空間は

$$W(2; A) = \left\{ a \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} + b \begin{bmatrix} -2 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \mid a, b \in \mathbb{R} \right\} \quad W(6; A) = \left\{ c \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ -2 \end{bmatrix} \mid c \in \mathbb{R} \right\}$$

となる.

$$P = \begin{bmatrix} 1 & -2 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & -2 \end{bmatrix}$$

と置けば, P は正則行列で,

$$P^{-1}AP = \begin{bmatrix} 2 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 6 \end{bmatrix}$$

□

25-2 対角化できる行列の条件

ここでは、正方行列が対角化できる条件について紹介します。まずは、対角化できない例を挙げておきます。

行列 $A = \begin{bmatrix} 5 & -3 \\ 3 & -1 \end{bmatrix}$ の固有多項式 $g_A(t)$ は

$$g_A(t) = \begin{vmatrix} t-5 & 3 \\ -3 & t+1 \end{vmatrix} = (t-2)^2$$

より、 A の固有値は 2 のみです。この固有空間は

$$W(2; A) = \left\{ a \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix} \mid a \in \mathbb{R} \right\}$$

となりますが、基底の個数が 1 個だけなので、 A を対角化する正則行列 P を作れません。

行列の対角化に関して次の定理が知られています。

定理 25-1 (文献 [1] 定理 5.4.2)

A を n 次正方行列とし、 A の相異なる固有値のすべてを $\lambda_1, \dots, \lambda_r$ とする。このとき、

$$A \text{ は対角化可能} \iff \sum_{i=1}^r \dim(W(\lambda_i; A)) = n$$

要するに、

A の固有空間の基底として全部で n 本のベクトルが揃わなければ対角化できない!

とすることです。

[補足] 定理 25-1 で A は対角化可能とする。このとき、各固有空間 $W(\lambda_i; A)$ の次元を k_i 、基底を $\{\mathbf{x}_{i1}, \dots, \mathbf{x}_{ik_i}\}$ とする。このとき、行列

$$P = [\mathbf{x}_{11}, \dots, \mathbf{x}_{1k_1}, \dots, \mathbf{x}_{r1}, \dots, \mathbf{x}_{rk_r}]$$

となる. よって

$$\sum_{i=1}^3 \dim(W(\lambda_i; A)) = \dim(W(1; A)) + \dim(W(2; A)) + \dim(W(3; A)) = 1 + 1 + 1 = 3$$

よって A は対角化できる. また

$$P = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & -1 \\ 0 & 0 & -1 \end{bmatrix}$$

と置くと

$$P^{-1}AP = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 3 \end{bmatrix}$$

B の固有多項式 $g_B(t)$ は

$$g_B(t) = \det(tE - B) = \begin{vmatrix} t-1 & 0 & 1 \\ -1 & t-2 & -1 \\ -2 & -2 & t-1 \end{vmatrix} = (t-1)^2(t-2)$$

より, B の固有値は 1, 2. それぞれの固有空間は

$$W(1; B) = \left\{ a \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{bmatrix} \mid a \in \mathbb{R} \right\}, \quad W(2; B) = \left\{ b \begin{bmatrix} 2 \\ -3 \\ -2 \end{bmatrix} \mid b \in \mathbb{R} \right\}$$

となる. 従って,

$$\sum_{i=1}^2 \dim(W(\lambda_i; B)) = \dim(W(1; B)) + \dim(W(2; B)) = 1 + 1 \neq 3$$

よって B は対角化できない.

□

問題 25-2 次の行列が対角化可能かどうか判定せよ. 対角化できる場合は対角化せよ.

$$A = \begin{bmatrix} 3 & 2 & -2 \\ 2 & 3 & -2 \\ -2 & -2 & 3 \end{bmatrix} \quad B = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 2 & 0 & 2 \end{bmatrix}$$

参考文献

- [1] 三宅敏恒, 線形代数学, 培風館.